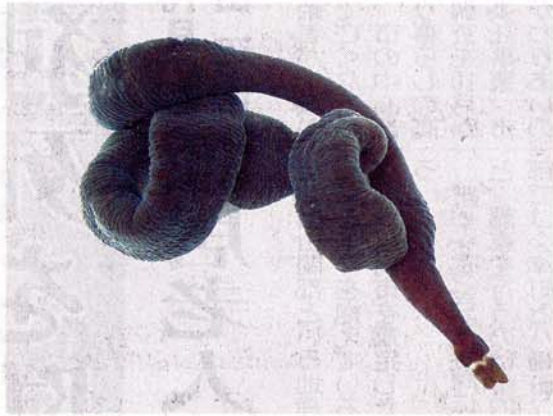


# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館

### ヒモムシ類



ヒモムシを知っている方は少ないだろう。名前の通りひも状の虫で、目立った突起などもない小さな動物だ。全国探してもヒモムシを展示している水族館はほとんどないが、白浜水族館

では体長30〜60センチくらいになるミサキヒモムシを展示している。できるだけそのままの海の生き物を見てもらうのが当館のテーマのひとつであるからだ。ちなみに、世界で最も長いヒモムシはリネウス・ロンギシムスで、最大級の個体は伸びると体長50センチを超えするという。太さは

白浜水族館で展示しているミサキヒモムシ  
(水槽番号22208)

# 実は進化した生き物!?

58

加藤 哲哉

数センチしかなく、シロナガスクジラなどを抜いて地球最長の動物と言われている。ヒモムシは動物学の教科書に必ず出てくる動物だ。特徴として、独特の吻(くちばり)があること、体腔(たいこう)がないことが挙げられる。

吻は獲物を捕るための器官で、通常は体の中にしまっているが、これを伸ばしてゴカイなどを絡めて捕る。先端に毒針を備えるものもある。他の動物でも摂餌用の吻を持つ動物は多いが、ほとんどの場合消化管の一部から生じたものだ。ヒモムシの吻は消化管と独立した吻腔という空所に収まっており、ヒモムシ独特の器官と言える。

体腔は、簡単にいうと体の中空所だ。わたしたち人間は体

腔の中に、臓器がつり下げられていて、運動によって臓器に与える影響は少ない。ヒモムシは体の外側と臓器がくっついてるので、体が伸びれば臓器も伸びなければならない。

動物の進化の過程で、体腔のない祖先から、体腔のある動物が現れたと考えられ、ヒモムシは原始的な動物とされてきた。しかし、最近のDNA解析で、ヒモムシが、体腔のあるゴカイなどに近い動物であることが分かってきた。このため、ヒモムシの体腔についての見解が直されてきており、現在は、吻腔が体腔に相当するとの説が有力だ。これまで原始的と思われてきたヒモムシだが、実は意外に進化した生き物なのかもしれない。

(京都大学技術職員)